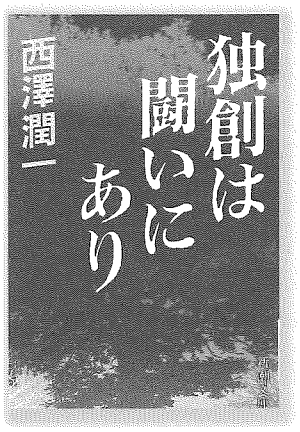

独創は闘いにあり

西澤潤一著

新潮社 1989（新潮文庫）

ネットワーク情報学部教授　田中　稔

読めば読むほど味の出る本ということで、この本が浮かんできた。平成元年の発行だが、今読んでもこの本の筆者の感慨、思いが伝わってくる。行き詰まった時などにこの本を読むと勇気づけられる。

インターネット社会の現代では最早当たり前となっている光通信、その光ファイバーの有効性に初めて気づき、「発明者」として知られている西澤潤一東北大学名誉教授。そのほかにも発光ダイオードなど数えきれないほどの発明があり、未完のノーベル賞候補といわれ続けてきた。この本は彼の半生を綴ったものであるが、独創的な仕事を行う苦悩、闘いなどが良く伝わってくる。さらに所々で引用される語句や言葉が印象的である。「愚直一徹、大道無門」、「自分をごまかさないという一点で、私は確かにかなりの頑固者である」、「頭をいじめぬいたからこそ、“頭が強く”なった」等々。

どうやら、「独創」に必要なのは秀才が持つ「賢い頭」ではなく、自分をごまかさない「強い頭」、そして常に問題意識を持つことか。

その他の推薦図書：

「統計学を拓いた異才たち」　D.サルツブルグ（竹内・熊谷訳）（日経ビジネス人文庫）
数理統計学の歴史的な流れ、思想の変遷がわかる

「フェルマーの最終定理」　サイモン・シン（青木薫訳）（新潮文庫）
数学の定理を証明することの大変さがリアルに感じられる

「国家の品格」　藤原正彦　（新潮新書）
数学者でもある著者の一種独特な考え方に共感するところが多い

「持続力」　山本　博　（講談社α新書）
日本アーチェリー界のカリスマもこんなに努力をしていた